

主要産地における平成28年産水稻の生育状況等について 第7報 (7月5日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成28年7月6日)

道府県	生育状況等		
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等	
北海道	(生育)	<p>(全道) 生育は平年並(±0)。草丈は28.6cmで平年並、葉数は6.6枚で平年並、莖数は189本/m<sup>2</sup>で平年より少ない。 (北海道農政課 6月15日現在)</p> <p>(空知) 6月上旬の低温や日照不足により、生育は停滞した。分けつ始は6月6日。草丈は30.0cmで平年並、葉数は6.8枚で平年並、莖数は203.4本で平年並。(空知総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(石狩) 低温・日照不足により、生育が遅延(早2日)。草丈は22.7cmで平年並、葉数は5.8枚で平年並、莖数は151.0本で平年並。(石狩総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(後志) 分けつ始は6月12日。草丈は24.9cmで平年並、葉数は5.8枚で平年並、莖数は136.0本で平年並。 (後志総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(胆振) 生育は平年並(±0日)。草丈は25.9cmで平年よりやや長く、葉数は5.7枚で平年より少なく、莖数は122.4本で平年並。 (胆振総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年並(早1日)。草丈は27.3cmで平年並、葉数は6.3枚で平年並、莖数は132.5本で平年より少ない。 (日高総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年並に推移。分けつ始は6月9日(早1日)。草丈は27.8cmで平年より長く、葉数は6.0枚で平年並、莖数は190.0本で平年より少ない。(渡島総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(檜山) 最高気温が低く日照不足で、莖数が少ない(遅2日)。草丈は23.7cmで平年並、葉数は6.2枚で平年並、莖数は102.7本で平年より少ない。(檜山振興局 6月15日現在)</p> <p>(上川) 生育は平年並に推移している。分けつ始は6月3日(遅2日)。草丈は29.5cmで平年よりやや短く、葉数は7.0枚で平年よりやや少なく、莖数は216.0本で平年より少ない。(上川総合振興局 6月15日現在)</p> <p>(留萌) 6月上旬の低温と日照不足により生育は鈍化し、平年並となった(早1日)。分けつ始は6月2日。草丈は31.5cmで平年並、葉数は6.9枚で平年並、莖数は170.0本で平年より少ない。(留萌振興局 6月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 低温寒害により生育は遅延(遅2日)。分けつ始は6月12日。草丈は25.5cmで平年よりやや短く、葉数は5.4枚で平年よりやや少なく、莖数は123.7本で平年より少ない。(オホーツク総合振興局 6月15日現在)</p>	<p>・7月のいもち病(葉いもち)の発生量ははや多いと予想。ウンカ類とアカヒゲホソミドリカスミカメの発生量は平年並、ニカイガ、イネドコロイムシ、フタオビコヤガの発生量ははや少ないと予想 (北海道病害虫防除所 6月30日公表)</p>
青森	(生育)	<p>・6月30日現在、県生育観測ほ(全県)の生育状況は、「つがるロマン」は草丈が長く、葉数、葉齢は平年並であった。「まっしぐら」は平年並であった。 葉数からみた生育の進捗は、「つがるロマン」は1日程度進んでおり、「まっしぐら」は平年並であった。 県内の幼穂形成期は、7月1日以降の気温が平年並に推移した場合、「つがるロマン」で7月10日～14日頃、「まっしぐら」で7月6日～19日頃と予想される。同様に収穫期は、「つがるロマン」で8月3日～7日頃、「まっしぐら」で8月2日～14日頃と予想される。 (青森県 7月5日付)</p> <p>(黒石) 6月30日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が42.9cmで平年より4.2cm短く、株当たり葉数は27.6本で平年より2.1本少なく、葉齢は8.8葉で平年より0.5葉少なかった。「青天の露露」の生育状況は、草丈が50.9cmで前年より0.8cm短く、株当たり葉数は24.8本で前年より6.1本少なく、葉齢は8.2葉で前年より0.3葉少なかった。 (十和田) 6月30日現在の「まっしぐら」の生育状況は、草丈は37.1cmで平年より3.2cm長く、株当たり葉数は21.4本で平年より1.7本少ない。葉齢は9.0葉で平年より1.1葉多かった。 (青森県産業技術センター-農林総合研究所 7月1日付)</p>	<p>・7月の葉いもち、稲こうじ病ははや多いと予想。コバネイナゴははや少ない、斑点カメムシ類(アカヒゲホソミドリカスミカメ)はやや多い、フタオビコヤガははや少ないと予想。 (青森県病害虫防除所 6月29日公表)</p> <p>・イネミスゾウムシの発生は「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>
岩手	(生育)	<p>・6月24日現在、県全体の生育は草丈39.2cmで平年より0.9cm短く、葉数は399本/m<sup>2</sup>で平年よりやや少ない(平年比91%)状況。葉数は1.8葉で平年より0.5葉少なく、生育は平年より2～3日程度遅れている。葉色の目安であるSPAD値は概ね平年並(平年差-0.8)。 (岩手県 6月30日付)</p> <p>・6月24日現在、農業研究センター(北上)の「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、草丈は平年を上回り、葉齢は平年を下回っている。葉数は「ひとめぼれ」で平年を上回り、「あきたこまち」で平年並みとなっている。葉色(SPAD値)は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、平年を上回っている。県北農業研究所(軽米)の「いわてっこ」は、草丈、葉齢、葉数、葉色(SPAD値)とも平年を下回っている。 (岩手県農業研究センター 6月27日付)</p>	<p>・7月の葉いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量ははや多く、稲こうじ病の発生量ははや少ないと予想。斑点カメムシ類(アカヒゲホソミドリカスミカメ)第1世代の発生時期はやや早く、発生量は平年並、コバネイナゴの発生量は平年並、フタオビコヤガ第2世代の発生量ははや少ないと予想。 (岩手県病害虫防除所 6月29日公表)</p>
宮城	(生育)	<p>・7月1日現在、生育は概ね順調であり、葉数(平年差+0.2枚)からみると平年に比べて1～2日程度進んでいると思われる。生育観測ほの県全体平均は、草丈が52.3cm(平年比106%)、1m当たり葉数が520本(平年比94%)、葉数が9.9枚(平年差+0.2枚)、葉緑素計(GM)値が43.0(平年差+2.2)であった。 (宮城県 7月4日付)</p> <p>(大崎) 7月1日現在、草丈はほぼ平年並～やや長く、葉数は、北部平坦ササニシキ及び西部丘陵まなむすめ、山間高冷やまのしずくは、平年を大きく上回っている。一方北部平坦及び西部丘陵のひとめぼれは、平年を下回っているが、前回の6月20日調査に比べ、回復傾向がみられる。葉数は、ほぼ平年並またはやや少ない傾向が見られる。葉色は、やや濃い傾向が見られる。ただし、北部平坦のササニシキは、平年に比べやや濃い。 (大崎農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>(本吉) 7月1日現在、気仙沼市の生育観測ほ(ひとめぼれ)では、平年と比較して、草丈は平年並、葉数は少なく、葉数は多く、葉色はやや濃くなっている。6月末から中干し期間に入った。葉数が平年より少ないのは、昨年から田植機が替わったことに伴い播種密度が変わった(少なくなった)ため。前三陸町の生育観測ほ(ササニシキ)では、草丈、葉数、葉齢、葉色ともにほぼ平年並。気仙沼市の生育観測ほはまだ必要葉数に達していないが、管内の巡回調査から、管内の播種水稲はおおむね必要葉数(約50本/m<sup>2</sup>)を確保したと思われる。生育は平年より2～3日進んでいると見られる。(本吉農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>(仙台) 6月23日現在、渚水直播(5月中旬播種)では6～7葉展開期、葉数150本/m<sup>2</sup>程度で、ほ場により生育量にバラつきが多くなっている。乾田直播(4月中旬播種)では8葉展開期、葉数300本/m<sup>2</sup>程度で、概ね順調に生育が進んでいる。 (仙台農業改良普及センター 7月1日付)</p> <p>6月10日現在、葉数が前年の同時期よりも1割程度多い傾向。特に、ササニシキでは、葉数が多くなっている。 (仙台農業改良普及センター 6月13日付)</p> <p>(大河原) 6月20日現在の管内の生育観測ほの生育は、草丈、葉色、葉数などは、全般的に平年並みとなっている。葉数は平年より少ない傾向にあるが、平坦部では、概ね有効葉数に達している。渚水直播栽培の普及展示地の生育は、草丈、葉数は平年を上回る生育、葉齢もやや早い傾向で進んでいる。(大河原農業改良普及センター 6月20日付)</p> <p>(美里) 6月20日現在、生育は概ね順調で、葉数からみると平年に比べて2～3日程度進んでいるとみられる。 (美里農業改良普及センター 6月23日付)</p> <p>(栗原) 6月20日現在のひとめぼれは、葉数は平年より多く(平年差+0.5枚)、生育は平年より3日程度進んでいる。葉数は平年より多く(平年比113%)、すでに有効葉数(480～500本/m<sup>2</sup>)を確保したほ場がある。草丈はやや長く(平年比104%)、葉色は平年より濃い状況(平年比109%)。(栗原農業改良普及センター 6月23日付)</p> <p>(登米) 6月20日現在、平年に比べ、草丈はやや長め(平年比102～121%)、葉数は多く(同比114～141%)、葉数ははやや多め(平年差-0.3～+0.8枚)、葉色はほ場によりバラツキがあるがやや濃い(同差-0.2～+4.6)。葉数から、生育は3～5日程度進んでいる。直播栽培は、平年に比べ、草丈はやや長く、葉数は多く、葉数は多めに推移し、生育は5日程度早い。葉色についても濃いめに推移している。ほ場によっては、イネミスゾウムシなどの被害がみられる。 (登米農業改良普及センター 6月23日付)</p> <p>(亶理) 6月10日現在、葉数は前年並み、草丈は前年より高くなる傾向がみられる。乾田直播栽培では、苗立ち率は良好で初期にしては葉数も多く、葉数も進んでおり、移植栽培と生育の差は10日程度となっている。渚水直播栽培でも移植後の苗立ち率は高くなっている。(亶理農業改良普及センター 6月13日付)</p>	<p>・7月上旬までの葉いもちの発生量は平年並、コバネイナゴの発生時期はやや早く、発生量ははや多いと予想。 (宮城県病害虫防除所 6月22日公表)</p> <p>・ヒメトビウカの発生は「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>
秋田	(生育)	<p>(由利) 6月25日の水稲定植調査結果(3品種・移植8か所平均)によると、草丈は40.9cmで平年より長く(平年比106%)、1mあたり葉数は460本で平年よりやや少なく(平年比96%)、葉数は8.8葉と平年並(平年差0.1葉)となった。 (7月1日付)</p> <p>(秋田) 6月24日現在、定植調査ほ(あきたこまち・10地点平均)の草丈は43.8cm(平年比111%)と平年より長く、1m当たりの葉数は440本(平年比99%)、葉数は9.2葉(平年差+0.3葉)、葉色(SPAD値)は44.8(平年比101%)で平年並みとなっている。依然として、ほ場間での生育差が大きくなっている。 (7月1日付)</p> <p>(北秋田) 6月24日現在のあきたこまちは、草丈42.9cm(平年比109%)、葉数442本/m<sup>2</sup>(平年比84%)、葉数9.0葉(平年差-0.1葉)、葉数から見た生育は、平年並み、目標とする葉数を確保したほ場では、中干し・灌漑作業が行われている。 (7月1日付)</p> <p>(雄勝) 6月24日の生育状況は、草丈37.9cm(平年比105%)、葉数327本/m<sup>2</sup>(平年比87%)、葉数8.3枚(平年差-0.1枚)、葉り45.3(平年比100%)となっている。生育の進み具合は平年並だが、草丈が長く、葉数が少ない傾向。 (7月1日付)</p> <p>(平鹿) 6月24日に付いた水稲生育定植調査(あきたこまち11か所)の結果では、草丈が35.9cm(平年比100%)、葉数が302本/m<sup>2</sup>(平年比92%)、葉数が8.5葉(平年差+0.2葉)、葉色が43.7(平年比100%)となっている。 (7月1日付)</p> <p>(仙北) 6月24日現在のあきたこまちは、草丈37.4cm(平年比101%)、葉数409本/m<sup>2</sup>(平年比97%)、葉数8.3葉(平年差-0.1葉)となっている。目標葉数を確保したほ場では直ちに中干し(目安は7～10日程度)を行うよう指導。 (7月1日付)</p> <p>(鹿角) 6月24日の定植調査では、草丈が38.6cm(平年比102%)でやや長く、葉数が489本/m<sup>2</sup>(平年比97%)でやや少なく、葉数が8.5葉(平年-0.3葉)とやや少なくなった。葉色はSPAD値で46.3(平年比103%)でやや高くなった。 (6月24日付)</p> <p>(山本) 6月24日現在、水稲定植調査ほ場(管内9地点)における生育状況は、草丈40.3cm(平年比109%)、葉数401本/m<sup>2</sup>(同比101%)、葉数8.7(同差+0.1葉)、葉色44.1(同比101%)となっている。(6月24日付) (秋田県農林政策課)</p>	<p>・7月の葉いもち、褐色菌核病、稲こうじ病の発生量は平年並、紋枯病の発生量ははや少ないと予想。セジロウカメシの発生時期は早く、発生量ははや多いと予想。斑点カメムシ類(アカヒゲホソミドリカスミカメ)の発生時期は早く、発生量は多い。アカヒゲホソミドリカスミカメの発生量ははや多いと予想。フタオビコヤガ、コバネイナゴの発生量ははや少ないと予想。 (秋田県病害虫防除所 7月1日公表)</p> <p>・イネミスゾウムシの発生は「多い」、斑点カメムシ類の発生は「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>

山形	生育状況等	周辺及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
(生育)	<p>・6月30日現在、平坦部「はえぬき」の生育は、草丈は46.2cmで平年よりやや長く（平年比105%）、茎数は592本/m<sup>2</sup>で平年よりやや少なく（平年比92%）、葉数は9.4枚で平年並（平年並+0.1枚）、葉色は42.3で平年並み（平年並-0.2）となっている。<u>農業総合研究センター</u>にて「はえぬき」の出穂期は平年並みで、8月3日前後と見込まれている。 <u>（オールやまがたまぐり日本一運動本部 7月1日付）</u></p> <p>（西村山）6月30日現在の「はえぬき」の生育は、葉数の進みはほぼ平年並み。草丈はほぼ平年並み、葉数は圃場により少ない。葉色はやや濃い。（<u>村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日付</u>）</p> <p>（酒田飽海）6月30日現在の生育診断書の生育は、草丈は長めで推移していたが、平年並に落ちつき、葉数は前年のような急増はない。自葉数は確保されている。葉色は濃く推移していたが、現在は平年並～やや濃い程度。 <u>（酒田農業技術普及課 7月1日付）</u></p> <p>6月30日現在、つや姫の生育状況は、草丈は平年並～やや短く、葉数は平年並～やや少なく、葉色は平年並（圃場間差あり）、葉色は平年並～やや濃い(40以上あり)。出穂期は8月11日で、平年並の予想。 <u>（酒田農業技術普及課 7月1日付）</u></p> <p>（最上）6月30日の幼穂調査では、出穂時期は平年並と予想。（最上総合支庁農業技術普及課 7月4日付）</p> <p>6月20日現在、管内の生育は概ね平年並みからやや進んでいる。葉色が濃く、茎数過剰が懸念されるほ場もみられる。（最上総合支庁農業技術普及課 6月24日付）</p> <p>（北村山）6月20日現在、生育は平年より2～3日進んでいる。m茎数は昨年より少ないものの、必要な本数は確保されている。（北村山農業技術普及課 6月22日付）</p> <p>（鶴岡田川）6月20日現在、葉数が平年より進み、草丈は長く、葉数は平年並、葉色は濃い生育となっている。過剰生育が予想される。（庄内総合支庁農業技術普及課 6月22日付）</p> <p>6月10日現在、直播栽培の生育は、昨年よりやや遅れているものの、概ね指標並の生育となっている。（庄内総合支庁農業技術普及課 6月14日付）</p> <p>（東南村山）6月20日現在の「つや姫」の生育は、葉数は前年よりやや少ない傾向にあるが、全般的に必要な葉数は確保されている。（村山総合支庁農業技術普及課 6月22日付）</p> <p>（東南置戸）6月20日の生育は、草丈はやや長く、葉数は平年並み～やや少なく、葉色はやや濃い状況。地域、品種、ほ場間の生育のばつが大きい。（置戸地域本部実践班 6月22日付）</p>	<p>・7月の葉いもち、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は平年並、フタオビコヤガ(仔774) (第2世代)、コバネイナゴの発生量はやや少ないと予想 (山形県病害虫防除所 6月29日公表)</p> <p>・斑点米カメムシ類の発生は「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>
(生育)	<p>・6月14日現在の農業総合センターの生育調査では、本部（郡山）と会津地域研究所（会津坂下）で草丈、茎数ともに平年並、浜地域研究所（相馬）で草丈、茎数ともに平年を上回っている。主稈葉数は、平年並から多くなっている。 (福島県農林水産部 6月16日付)</p>	<p>・7月のいもち病(葉いもち)の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予想 (福島県病害虫防除所 6月29日公表)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生量が県内全域でやや多いと予想 (福島県病害虫防除所 6月29日公表)</p>
(生育)	<p>（水戸市）6月30日現在、幼穂の生育程度から予測される出穂期は、5月2日に移植した「あきたこまち」で平年より1日遅く、「コンヒカリ」で2日早い。平年に比べ、草丈は商品種ともにやや短く、葉数は「あきたこまち」でやや少なく、「コンヒカリ」で少ない。葉色は商品種ともに並。 5月10日に移植した「コンヒカリ」は、主稈葉数の展開からみた生育は平年より1日遅い。平年に比べ、草丈は並、葉数は多く、葉色は並。 <u>（茨城県農業総合センター農業研究所7月4日付）</u></p> <p>（龍ヶ崎市）6月27日現在、幼穂の生育程度から予測される出穂期は、4月27日に移植した「あきたこまち」は平年より2日早い。7月12日、「コンヒカリ」は平年より1日早い。7月23日、平年に比べ、草丈は「あきたこまち」で長く、「コンヒカリ」でやや長い。葉数は商品種とも並、葉色は商品種とも濃い。 <u>（茨城県農業総合センター農業研究所 7月4日付）</u></p>	<p>・7月のいもち病(葉いもち)の発生量は平年並～やや多いと予想。斑点米カメムシ類の発生時期はやや早く、発生量は県下全域でやや多いと予想。 <u>（茨城県病害虫防除所 7月4日公表）</u></p> <p>・イネミスゾウムシの発生が「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・注意報一イネ綿葉枯病(ヒメトビウカ)の発生量が県西地域、県南の一部地域で多いと予想 (茨城県病害虫防除所 6月9日公表)</p>
(生育)	<p>・6月22日現在、早稲栽培コンヒカリの生育状況(16か所平均)は、草丈は長く(平年比106%)、茎数は平年より少ない(92%)、葉数は3.2多く、葉色は3.3濃い。葉齢から判断して、生育は1～2日程度進んでいると考えられる。生育診断値(葉色×葉数)は平年比87%小さい。 ・6月23日現在の出穂期予測は、平均気温が平年並で経過した場合、早稲コンヒカリ(5月4日移植)の出穂期は、宇都宮市(7月27日～28日)、大田原市(8月1日～2日)とも平年より5日程度早いと推定される。 (栃木県農政部 6月24日付)</p>	<p>・綿葉枯病、ヒメトビウカの発生が「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・6月下旬～7月下旬の綿葉枯病の発生量は多いと予想 (栃木県農業環境指導センター 6月17日公表)</p> <p>・注意報一イネ綿葉枯病が、県中南部地域で発生量が多いと予想 一部地域でコバネイナゴの多発生を懸念。第1世代幼虫の防除時期は、6月上旬～中旬と予想 (栃木県農業環境指導センター 6月1日公表)</p>
(生育)	<p>・6月1日現在、早期栽培(5月2日植)コンヒカリ)の苗の徒長などは見られず、概ね平年並の苗が得られた。活着は良好。初期生育は良好で、移植後20日調査では、葉位の進展は早く、生育量も平年を上回った。移植後30日調査では、やや閉鎖気味となった。概ね平年並の順調な生育である。早稲栽培(5月20日植)彩のかがやきは、充実度の高い良苗が得られた。活着は良好であり、その後の生育も順調。 県内全般の早期栽培では、活着は良好で初期生育は順調。早稲栽培では5月中旬以降、苗の生育遅れから移植が遅れ気味となったが、概ね前年並に達し、活着は良好で初期生育は順調。 (埼玉県農業技術研究センター 6月1日現在)</p>	<p>・7月の綿葉枯病の発生量は多く、葉いもち、綿葉枯病の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並の予想。 ヒメトビウカ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ(第2世代幼虫)、セジロウカ、斑点米カメムシ類の発生量は多く、イネアオムシ(第3世代幼虫)の発生量はやや少ないと予想 (埼玉県病害虫防除所 6月29日公表)</p> <p>・綿葉枯病の発生が「多い」、ヒメトビウカ、いもち病の発生が「やや多い」と予想 (農林水産省 6月21日付)</p>
(生育)	<p>・4月20日頃に移植した「コンヒカリ」は、「ふさおとめ」「ふさのがね」と同様、平年と比較して3日程度早く幼穂形成期を迎えた。5月1日頃に移植した各品種は、平年並みの生育となっている。 <u>（千葉県農林水産部 6月28日付）</u></p>	<p>・注意報一斑点米カメムシ類(特にアサスジカミカメ)の発生量が県内全域で多いと予想。 <u>（千葉県農林総合研究センター 7月1日公表）</u></p> <p>・向こう1か月の病害虫の発生量は、いもち病(葉いもち)は平年並、イネドロオシムシは少なく、イネウロカメムシとヒメトビウカはやや多く、セジロウカとコバネイナゴは平年並の予想 (千葉県農林総合研究センター 6月9日公表)</p> <p>・5月下旬に行った調査では、16地点でヒメトビウカ成虫が捕獲され、過去11年で昨年に次いで2番目に多く、7地点は県北西部で合った。 (千葉県農林総合研究センター 6月9日公表)</p>
(生育)	<p>・6月30日現在、コンヒカリの生育は、指標値に比べて葉数の進みは「並み」、草丈は「やや長い」、葉数は「並み」、葉色は「やや濃い」状況。こしいぶきの生育は、葉数の進みは「やや短い」、草丈は「高い」、葉数は「並み」、葉色は「並み」の状況で、平年と比べ進んでおり、早いほ場では幼穂が確認されている。 コンヒカリの出穂期は平年より2日程度早く、こしいぶきは4日程度早まると予想されるが、今後の高温によってはさらに早まる可能性がある。 <u>（新潟県農林水産部 7月1日付）</u></p> <p>（岩 船）6月30日現在、指標値に比べ、草丈はほぼ並、葉数はほぼ並、葉数は並(早生早い)、葉色はやや濃い。中干し・灌漑の効果がより、草丈の伸長や葉数の増加、葉数の進みが緩やかに、葉色が濃くなってきている。早生品種は幼穂が確認され始めている(連休過ぎ新潟次郎、5～20mm程度)。 <u>（村山農業普及指導センター 6月30日現在）</u></p> <p>（新発田）6月30日現在のコンヒカリの生育は、葉数の進みは平年と比べて3日程度早まるとなっている。出穂は平年と比べて2日程度早い(5月10日移植コンヒカリは8月7日出穂)と予想される。草丈は長く(54cm 指標値110%)、葉数は並(439本/m<sup>2</sup> 同比49%)、葉数はやや多く(11.0葉 指標値4.3葉)、葉色はやや濃い(葉緑率計7.2 同比-1.3)。 各地域で早生の幼穂が確認されている。早生の出穂期は平年より2日早い予想。 <u>（新発田農業普及指導センター 6月30日付）</u></p> <p>（新潟）6月30日現在、草丈が長めになっている。コンヒカリの生育は、草丈：やや長、葉数：並、葉色：淡、こしいぶきの生育は、草丈：長、葉数：並、葉齢：やや早い、葉色：並、新之助の生育は、草丈：長、葉数：やや少、葉齢：やや早、葉色：並、出穂期は、早生品種「コンヒカリ」とも平年より2日程度早い。こしいぶきで7月25日出穂、コンヒカリで8月3日出穂の予想。 <u>（新潟農業普及指導センター 6月30日付）</u></p> <p>（長 岡）6月30日現在、指標値に比べ草丈は並、葉数はやや多く、葉数は多く、葉色はやや濃くなっている。生育ステージは早まっている。コンヒカリの生育(早生品種「早生早」)は、指標値に比べ草丈104%、葉数106%、葉数6.0、葉色1.6(SPAD値)。(新潟農業普及指導センター 6月30日付)</p> <p>（南魚沼）6月30日現在、コンヒカリの生育は、指標値に比べ草丈51cmでやや長く(指標値比106%)、葉数は513本/m<sup>2</sup>で多く(同比113%)、葉数は9.9葉で多く(同比+0.6葉)、葉色(SPAD値)は39.7で並み(同比+0.2)となっている。 出穂期は前年と比べて1日程度早くなる見込み。 <u>（南魚沼農業普及指導センター 6月30日付）</u></p> <p>（柏 崎）6月30日現在、こしいぶきは2日程度、コンヒカリは1日程度生育早く生育はともに順調。 <u>（柏崎農業普及指導センター 6月30日付）</u></p> <p>（上 越）6月30日現在、コンヒカリの生育は、草丈は長く(指標値比115%)、葉数はやや多く(同比109%)、葉数はやや多く(同比+0.4葉)、葉色(SPAD値)は並み(同比-0.6)。6月下旬の低湿、日照不足により、生育の進みはやや鈍化した。草丈は長く、葉数が多いため、葉色の急低下に注意が必要。こしいぶきの葉色はやや濃くなっているが、草丈、葉数、葉数は指標値並。 <u>（上越農業普及指導センター 6月30日現在）</u></p> <p>（巻）6月20日現在、草丈は長く、葉数は多い。葉数は早く、葉色は平年並～やや濃い。生育が進んでいるため、早生の出穂は平年と比べて3～4日程度早い見込み。 <u>（巻農業普及指導センター 6月20日付）</u></p> <p>（三 条）6月30日現在、コンヒカリの出穂は2日程度早まる予想。コンヒカリは倒伏懸念も。 <u>（三条農業普及指導センター 6月30日付）</u> 6月24日現在、各地幼穂を確認。早生品種の出穂は平年比で3日程度早まる予想。 <u>（三条農業普及指導センター 6月24日付）</u></p> <p>（新 津）6月20日現在、コンヒカリ、こしいぶきとも指標値と比べ、草丈はやや長～並、葉数はやや多～並、葉数はやや多～並、葉色はやや濃い～並。生育は全般的に良好だが、地域差が大きく一部で過剰生育になっている。出穂期は、平年より2日早まると予想される。 <u>（新津農業普及指導センター 6月20日付）</u></p> <p>（糸魚川）6月20日現在、多くのほ場では目標穂数以上の葉数がすでに確保されている。コンヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は並、葉数は多く、葉数は並、葉色は並。こしいぶきは指標値に比べ草丈は長く、葉数は多く、葉数は多く、葉色は淡。現時点の予想では、出穂期は平年と比べて2日程度早くなる見込み。 <u>（糸魚川地域農林振興部 6月21日付）</u></p> <p>（佐 渡）6月20日現在のコンヒカリの生育は、草丈は長く、葉数は多め、葉色は回復してきている。草丈は43cm(指標値比116%)、葉数は47.8本/m<sup>2</sup>(同比114%)、葉数は7.7葉(同比+0.1葉)、葉色は41.1(同比+2.1)。 <u>（佐渡農業普及指導センター 6月20日付）</u></p> <p>（魚 沼）田植え後の好天により、葉数は順調に増えており、生育が早まっている。 <u>（JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 6月1日付）</u></p>	<p>・7月の葉いもち、紋枯病、稲こじ病の発生量は平年並の予想。ニカメイチュウの発生量は平年並、セジロウカ、イネアオムシの発生量は平年並～やや多、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予想。 ツマグロヨコバイ、コバネイナゴの発生量は平年並、イネアオムシの発生量はやや少なく、コバネイナゴの発生量は平年並～やや多いと予想。 <u>（新潟県病害虫防除所 6月30日公表）</u></p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類(アカヒゲソドドリカミカメ)の発生量が県内全域で平年と比べて多いと予想 (新潟県病害虫防除所 6月29日公表)</p>

生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
富山	<p>・生育観測ほデータ(6月28日現在) (コンヒカリ) 平年に比べ、葉齢がやや進んでおり、草丈は長く、莖数、葉色は平年並みとなっている。生育量の平均値は、131と概ね平年並みであるが、100から152とばらつきが大きくなっている。幼穂形成期は、平年より1日程度早い7月12日頃と見込まれる。 (てんたか) 平年に比べ、葉齢がやや進んでおり、草丈は長く、莖数、葉色は平年並みとなっている。幼穂形成期は、平年より4日早く6月28日となった。出穂期は、7月18日頃と見込まれる。 (てんこもり) 平年に比べ、葉齢が進んでおり、草丈は長く、莖数、葉色は平年並みとなっている。幼穂形成期は、平年より4日程度早い7月12日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 6月28日付)</p> <p>・直播情報(6月28日現在) 湛水土中直播栽培(カルバー)の生育は、平年に比べ、葉齢は進んでおり、草丈は長く、莖数はやや多く、葉色は平年並みとなっている。 湛水表面直播栽培(鉄)の生育は、近年に比べ、葉齢はやや進んでおり、草丈はやや長く、莖数は多く、葉色はやや淡くなっている。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 6月28日付)</p>	<p>・7月の葉いもち、穂いもち、稲こじ病の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は多いと予報。 斑点米カメムシ類の発生量は、アカヒゲホシムドリカスミカメは多く、アカシカカスミカメ、トゲシラホシカメムシは平年並みの予報。 ニカメイガ(第2世代)の発生量はやや多く、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウカの発生量は平年並、セジロウカの発生量はやや少なく、イネアオムシ、イナゴ類の発生量は少ないと予報。 (富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表)</p> <p>・紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生が県下全域で多いと予報 (富山県農林水産総合技術センター 6月21日公表)</p>
石川	<p>(6月28日現在の生育状況) ゆめみづほの出穂期は、加賀地域の平坦部で7月14～16日頃と近年に比べ3～4日程度早く、前年並、加賀地域の山間部では7月11日頃と近年に比べ2日程度早まると予想される。能登地域(羽咋～中能登)では7月16～21日頃と近年に比べ3～6日程度、前年と比べ1～2日程度早まると予想される。奥能登地域の能登ひかりは、7月18～23日頃と平年および前年に比べ2日程度早まると予想される。</p> <p>・コンヒカリの葉齢は、加賀地域で10.9葉(平年10.7葉)、能登地域で10.7葉(平年10.3葉)、県平均では10.8葉(平年10.5葉)となっている。コンヒカリの葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べ2～4日程度早く、概ね前年並と見込まれる。なお、加賀地域の圃場や能登地域の生育の早い圃場では幼穂が確認されている(幼穂長0.2～2.0mm)。</p> <p>・草丈は、コンヒカリは平年比105%(加賀地域104%、能登地域106%)と平年並、ゆめみづほは近年比109%(加賀地域108%、能登地域112%)と近年に比べ加賀地域はやや長く、能登地域では長くなっている。但し、葉齢の展開状況から勘案すると、いずれの品種も平年並と考えられる。</p> <p>・円当たり莖数は、コンヒカリは平年比98%(加賀地域99%、能登地域99%)と平年並、ゆめみづほは近年比98%(加賀地域99%、能登地域97%)と近年並となっている。県下の調査地点の内、コンヒカリの約8割、ゆめみづほは全て圃場で、最高分け時期を経過している。</p> <p>・コンヒカリの葉色は4.0(葉色板値)と低下傾向にあり平年(4.2)と比べやや淡い。 (石川県農林水産部農林総合研究センター 6月28日調査)</p>	<p>・斑点米カメムシ類の発生が「多い」、紋枯病の発生が「やや多い」と予報 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・6月下旬～7月上旬の葉いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多いと予報。斑点米カメムシ類の発生量は多く、セジロウカ、コブノメイガ、フタオビヨガの発生量は平年並と予報。</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生量が県内全域で多いと予報 (石川県農林総合技術センター 6月16日公表)</p>
福井	<p>・6月29日現在、コンヒカリは平年並みの生育。莖数は、5月20日植えのコンヒカリで平均29.3本/株、5月9日播種の直播コンヒカリで536本/m<sup>2</sup>。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月1日付)</p>	<p>・7月の葉いもち病、早・中生穂いもちの発生量は平年並み、白葉枯病、紋枯病の発生量は平年よりやや多いと予報。 ニカメイガの発生量は平年より少なく(前年よりやや多い)、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、セジロウカ、イネアオムシの発生量は平年並み(前年より多い)、イネアオムシの発生量は平年より少ない(前年より多い)と予報。 (福井県農業試験場 6月30日公表)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生量が平年より多い(前年よりやや少ない)と予報(福井県農業試験場 6月28日公表)</p> <p>・紋枯病の発生が「多い」と予報 (農林水産省 6月21日付)</p>
長野	<p>・7月1日現在、肥料定点圃場では草丈は平年並からやや長く、莖数はやや少ない傾向だが、最高分け時期で、畝間の見えにくいような葉枯れも見られる。 6月30日現在、DVIによる生育進捗では、平年より2～3日早く判定している。肥料定点圃場のあきたこまち1は、予想より1日早い7月2日に幼穂形成期に入った。平年より4日早く、昨年と同日。早稲種の出穂は平年より早まることが予想される。 (松本農業改良普及センター)</p>	<p>・紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予報 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・向こう1ヶ月間の葉いもち、緑葉枯病・黒条萎縮病、ツマグロヨコバイ・イネアオムシの発生量は平年並、ニカメイチュウ第1世代、イネミズムシの発生量はやや多く、イナゴの発生量は平年並～やや多いと予報 (長野県病害虫防除所 6月15日公表)</p>
滋賀	<p>・6月20日現在の草丈は、「コンヒカリ」、「秋の詩」とともに平年より約1割長かった。莖数は、両品種ともに平年並であった。葉数は、「コンヒカリ」が0.6枚、「秋の詩」が0.5枚平年より多かった。生育は全般に旺盛で、平年よりやや早い。「コンヒカリ」では、5月10日播種の幼穂形成期は、7月2日頃と予測される。</p> <p>・4月下旬～5月上旬移植の「みずかがみ」の幼穂形成期は、6月27日前後の見込み。5月中旬移植の「みずかがみ」の幼穂形成期は、6月末～7月初旬の見込み。 (滋賀県農業技術振興センター 6月23日付)</p>	<p>・紋枯病の発生量はやや多く、葉いもち、穂いもち、白葉枯病の発生量は平年並の予報。 ニカメイガ(第2世代)、セジロウカ、ヒメトビウカ、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多く、イチモンジセセリ、フタオビヨガの発生量は少ないと予報。 (滋賀県病害虫防除所 7月5日公表)</p>
兵庫	<p>・6月28日現在、県北は葉齢は平年よりやや進捗が早い、草丈は短く、莖数は平年より少ない。県全体では、葉齢は平年より進捗が遅い、草丈は平年並、莖数は平年より少ない。 6月27日現在の予想出穂期は、北但平担部(移植日5/15)のコンヒカリで7月28日、県北山間部(移植日5/10)のコンヒカリで8月4日、南但平担部(移植日5/20)のコンヒカリで8月3日、県南平担部(移植日6/1)のキヌヒカリで8月9日、淡路平担部(移植日6/20)のキヌヒカリで8月19日。 (兵庫県農政環境部 7月4日付)</p>	<p>・ヒメトビウカの発生が「やや多い」と予報 (農林水産省 6月21日付)</p> <p>・6月の葉いもちの発生量は平年並、ヒメトビウカ、セジロウカ、トビイロウカの発生量はやや多いとの予報 (兵庫県病害虫防除所 6月2日公表)</p>
岡山		<p>・7月の葉いもち、穂いもち、紋枯病の発生量はやや多く、緑葉枯病の発生量は平年並、ヒメトビウカとツマグロヨコバイの発生量はやや多く、ニカメイガ、セジロウカ、トビイロウカの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は少ない予報 (岡山県 6月30日公表)</p>
広島		
山口	<p>・各品種とも、おおむね過去の平均と同程度の生育状況となっている。5月中旬までに移植したコンヒカリ等では、概ね最高分け時期となった。農雨天・浸水等の影響で、葉が長く葉色が乱れ、莖数がやや少ないほ場もみられる。コンヒカリ、ひとめぼれの出穂は、5月上旬移植で7月29日頃、5月中下旬移植で8月3日頃と予想。 (山根門大津、長門農林事務所農業部 7月1日付)</p>	<p>・7月のいもち病(葉いもち)の発生量は多く、紋枯病の発生量は平年並、ヒメトビウカ(緑葉枯病)の発生量はやや少ないと予報。 セジロウカの発生量は多く、トビイロウカ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予報。 (山口県病害虫防除所 7月1日公表)</p>
愛媛	<p>・早期栽培のコンヒカリ、あきたこまちは穂肥の時期にあたる。早期栽培は、幼穂形成から出穂・開花期を迎える。水を必要とする時期であるため、やや浸水に浸水し、まめ細かな水管理を行うよう指導。普通期水稲は、多雨が予想されるため浸水管理を基本とし、穂の健全化を図るよう指導。 (愛媛県農林水産研究部 7月1日付)</p>	<p>・6月のいもち病(葉いもち)の発生量は平年並～やや多く、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウカ、セジロウカ、トビイロウカの発生量は平年並と予報 (愛媛県病害虫防除所 5月30日公表)</p>
高知	<p>・早期水稲(6月17日現在) 最高分け時期は、「南国そだち」がやや早く、「コンヒカリ」は平年並み。同期における草丈は、「南国そだち」が平年並み、「コンヒカリ」はやや長くなっている。葉数は、「南国そだち」が少なく、4月5日植え「コンヒカリ」は平年並み、4月14日植え「コンヒカリ」が少なくなっている。 出穂期は、4月5日植え「南国そだち」は6月16日。また、幼穂形成期後日数より推定した「コンヒカリ」の出穂期は、4月5日植えで6月26日、4月14日植えで7月2日となっている。いずれの品種、作型とも平年より4～7日早くなる模様。</p> <p>・普通期水稲(6月17日現在) 6月3日植え「ヒノヒカリ」は、草丈は平年並みで、莖数が平年よりやや少なめ、葉齢で見た生育進捗は平年並み。 (高知県農業技術センター 6月22日付)</p>	<p>・7月の早期稲は、いもち病(穂いもち)の発生量は平年並、ツマグロヨコバイの発生量は県中央部で多く、県東部でやや多いと予報。セジロウカはやや多く(県下全域)、ヒメトビウカは県中央部で多い予報。 普通期稲は、いもち病(葉いもち)は県東部と県西部で多く、ツマグロヨコバイは県東部と県中央部で多く、県西部でやや多いと予報。セジロウカは県中央部と県西部で多く、ヒメトビウカは県東部と県中央部で多いと予報。 (高知県病害虫防除所 7月6日公表)</p> <p>・注意報一いもち病(葉いもち、穂いもち)発生地域は県内全域で、発生時期は6月下旬以降 (高知県病害虫防除所 6月30日公表)</p>
福岡	<p>・早期水稲(夢つくし、コンヒカリ) 田植え時期は平年並みで、5月15日には終了している。田植え後の高温より初期生育は順調。</p> <p>・普通期水稲(夢つくし、元気づし、ヒノヒカリ) 苗の生育は順調。高温対策のため田植えは「夢つくし」が6月上旬、「元気づし」は6月中旬、「ヒノヒカリ」が6月下旬を中心に行われる見込み。 (福岡県農林総合試験場 平成28年5月16日等技術情報より抜粋)</p>	<p>・7月のセジロウカの発生量はやや多く、トビイロウカの発生量は平年並の予報。 (福岡県病害虫防除所 7月1日)</p>
熊本		<p>・7月の早期水稲の穂いもちの発生量は平年と比べやや多いと予報。早植え水稲の葉いもち、普通期水稲の葉いもちの発生量は平年並、早植え・普通期水稲のセジロウカの発生量は平年並の予報 (熊本県病害虫防除所 6月30日公表)</p>

生育状況等		同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
宮 崎	<p>・ <u>早期米生育状況（6月上旬）</u>  <u>分けつ終期～種ばらみ期を迎えている。平年より3日早い進度。5月中旬以降、平年に比べ、気温が高くなったため、生育が早く進んでいる。草丈は平年に比べて高く、葉数は平年並み～やや少なくなっているが、概ね順調に生育している。</u>  <u>（JA宮崎経済連ホームページ「平成28年度早期米生育状況」7月5日付）</u></p> <p>・ <u>早期水稲 6月1日現在の生育ステージ</u>  <u>（県全体） 分けつ終期～種ばらみ期を迎えている。平年よりも早い進度。生育状況は、草丈は平年より高く、葉数や葉齢は平年並みとなっている。幼穂形成状況から判断すると、出穂は6月20日頃から始まり、出穂最盛期は6月24日頃と予想されている。</u>  <u>（中部地区） 分けつ終期～幼穂形成期。平年より3日早い進度。中干し最盛期は5月15日頃であり、期間中は天候に恵まれ、作業は順調に進んだ。草丈はやや高く、葉数や葉齢は平年並みとなり、全体的な生育は概ね順調。</u>  <u>（南那珂地区） 減数分裂期～種ばらみ期。平年より8日程早い進度。移植後、気温が高くなったため、草丈は平年より高く、葉数は平年より少なくなっている。出穂最盛期は平年より8日程度高い6月17日頃が見込まれている。</u>  <u>（児湯地区） 分けつ盛期～幼穂形成期。平年並みの進度。前期の徒長傾向から回復し、上刈り葉が多く見られるようになった。26日には幼穂が1cmを超えるほ場も見られた。ほとんどのほ場で中干しが行われた。</u>  <u>（東臼杵南部地区） 幼穂形成始期。平年より2日程早い進度。日照時間は平年より短く、気温は平年より高くなっており、草丈、葉数は平年並みの生育。3月下旬移穂のものは、幼穂が見られた。</u>  <u>（JA宮崎経済連ホームページ「宮崎県産早期米産地情報」7月5日付）</u></p>	<p>・ <u>早期水稲</u>  <u>病害虫の発生量の平年比は、葉いもちはやや多く、紋枯病は平年並、ツマグロヨコバイはやや少く、セジロウカはやや多く、ヒメトビウンカと斑点米カメムシ類はやや多く、ヒメトビウンカは平年並の予報。</u></p> <p>・ <u>普通期水稲</u>  <u>病害虫の発生量の平年比は、葉いもちはやや多く、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、ヒメトビウンカは平年並、スクミリンゴガイの発生量はやや少ないと予報。</u>  <u>（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日公表）</u></p>
鹿 児 島		<p>・ <u>7月の早期水稲のいもち病（穂いもち）の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予報。</u>  <u>普通期水稲のいもち病（葉いもち）の発生量はやや多いと予報。</u>  <u>（鹿児島県病害虫防除所 6月29日公表）</u></p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。